



教育 おおらか・さわやか・さわやかな大崎の教育

問 教育委員会管理課 ☎476-1111(401)

◆県総合教育センター移動講座が開催されました

6月9日(火)に、大崎小学校にて『豊かな心を育む小中学校道徳基礎講座』が開催されました。地区内の小中学校から17名の参加があり、4年生の道徳の授業参観や学校で進める道徳教育についての講話など様々な研修が行われました。参加された先生方からは「自分が好きと言える子どもを増やしたい。」という感想が聞かれました。



◆平成27年度第1回町小中連携研究会が開催されました

6月18日(木)、大崎中学校を会場に、標記の会が行われました。昨年度、中学校統合を機に町内6小学校1中学校の職員が集まり、学力向上や小学校から中学校への円滑な接続を目的に授業参観・授業後の話し合いを行っています。本年度は、1学期に大崎中学校、2学期に大崎小学校での研究会を計画しており、18日は中学校で1年生の社会・理科・英語の授業参観が行われました。



小学校と中学校の授業の進め方や子どもたちの学習の仕方には『違い』があることを前提に、それぞれの校種や学年に応じた学習内容や学習のしつけ等を確実に定着させることが、学力向上につながるということが再度確認されました。今後は、学力向上や生徒指導等の充実を図るため、幼・保・小・中の更なる連携を進めていくことが共通理解されました。

まぶい窓おしえの庭 『手は離しても 目は離すな』

NO.31 中沖小学校 校長 小菌 義彦

この言葉は、三十数年前、私が初任で養護学校に勤めていた時に上司から教えられた指導の言葉です。子どもがうまく活動できないので、子どもには活動させずに私が代わりにやってあげる指導をしていたからです。子どもができるようになるために子ども自身にさせなさい。しかし、(命の危険もあるので)必ずそばにいて行動を見守っていなさい。ということでした。その後、常にこの言葉を頭に入れて指導するように心がけてきました。

このことは、家庭教育でも大事なことです。子どもができることでも子どもにさせず、親がしたり先回りしてレールを敷いてあげたりしている場面はないでしょうか。反対に、子どもがまだ自分ひとりでできる段階にないのに手を早く離しすぎて、できなくて子どもが困っている状況はないでしょうか。どちらも子どもの適切な成長を妨げていることとなります。

また、「うちの子は大丈夫、うちの子に限って…」とわが子を過信して、目を離している場面はありませんか。成長するにつれて一緒にいることはできなくなりますが、言葉遣いや生活態度などから子どもの様子を見ることはできます。子どもを(心の)目でしっかり見つめ、『いつもあなたのことを見ているよ』という親の思いが伝わっていることが重要です。

子どもが自立した大人になってくれることは親の願いです。子どもの成長段階を見極め、できることの少し高い目標を持たせて努力させ、励ます。できたら褒めて、また少し高い目標を持たせ取り組ませる。いつも温かい眼差しで子どもの成長を見守り、できるようになったことから、一つずつ手を離していくことが肝要だと思います。